

「日本計算機統計学会 News Letter No.70 (2019. 10. 15)」へ掲載

日本計算機統計学会フェローの称号をいただいて

東京理科大学 富澤 貞男

この度は、本学会の大変名誉あるフェローの称号を授与していただきまして、大変光栄に存じます。これもひとえに会長・副会長をはじめフェロー審査委員会の皆様、理事会・評議員会・学会員の皆様、そしてご推薦いただいた方々のおかげであり、皆様に厚く御礼申し上げます。

「私にフェローの称号を」という連絡をいただきましたとき、何かの間違いではと大変に驚きました。本学会へ私が貢献したものは何だろうかと自己分析をしてみました。私が日本計算機統計学会へ入会したのが平成 3 年度であります。本学会が設立されてから数年後であります。入会してから 30 年近く経ちますが、その間、学会の運営には本学会欧文誌編集委員を数年間務めさせていただきました。また、本学会第 31 回大会実行委員も務めさせていただきました。しかし、これだけではフェローに推挙していただけないのは明らかであり、他に本学会へ大きく貢献したものは何なのか考えてみました。ところで、私の研究分野は統計学における分割表解析であります。これまで 40 年近くこの分野の研究をしております。私は修士の学生であったとき、正方分割表における対称性のモデルに関する研究をしておりました。実データの解析をする際、どうしても計算機の力が必要でした。当時、ちょうどパソコンが発売された頃であり、値段はかなり高かったのですが購入し研究のために使用しました。ちなみに記録媒体はカセットテープでありました。プログラム言語 BASIC を用いて多数のプログラムを作成し研究を進めることができました。その後本学会が設立され、今日まで計算機統計の発展には目を見張るものがあります。さて私が大学教員になり研究室を持つようになってからこれまで約 190 名の大学院生（修士課程と博士課程）の研究指導をして参りました。今年度は 18 名の院生の研究指導をしております。毎年、院生は熱心に研究に取り組んでくれ、これまで多くの研究成果が得られ論文として学術雑誌へ多数掲載されました。そして日本計算機統計学会において 32 名の院生が発表してくれました。そのうち 5 名が学生研究発表賞を受賞しております。これまでの計算機統計に関する研究、特に若手に対する教育と研究指導の取り組みに対して本学会が大変高く評価していただきフェローの称号をいただけたのかなと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

皆様ご存じのように、データサイエンスなどに関することが注目されております。特に若い方は大変関心あることと思います。日本計算機統計学会は今後若い方を中心にますます発展して大きな学会になって行くと思います。私も若い方の教育と研究指導にこれからも微力ではありますが本学会発展のために貢献させていただきたいと思っております。

末筆ではございますが、改めて名誉あるフェローの称号を授与していただきましたこと

に感謝申し上げるとともに、本学会のますますの発展を祈念いたします。今後ともどうぞ
よろしく願い申し上げます。